

オムロン株式会社 2013 年度決算・VG2020 中期経営計画(2014 年度計画含む)
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)
(2014 年 4 月 24 日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 2016 年度までの新興国の売上高増加の国別の内訳は？ また、新規事業の増加の内訳は？

A: 個別の内訳は開示していない。新興国では、長年投資を行ってきた中国は回収期としての伸びを期待し、中南米、アジアの伸びは年率二桁以上を計画している。新規事業では、環境に加え、駅の安心・安全、ヘルスケア事業のウェアラブルなどでの増加を計画している。

Q: 2014 年度における消費税増税の影響額は？

A: 2013 年度の影響額は全社で 70 億円程度。車載事業が多く、2014 年度の 1Q は反動減を見込む。社会システム事業ではソフトウェアの更新対応の増加分がなくなる。また、他の事業でも若干の影響はあったと見ており、それぞれ慎重に見ている。

Q: EPS の目標はわかりやすく、配当性向の向上もありがたい。しかしながら、2016 年度の ROE 目標が少し低く感じるので、自社株買いを実施してさらなる ROE の向上を狙ってはどうか？

A: キャッシュの用途としては成長投資を第一に置いている。次は配当、その次に自社株買いを考えている。年度のキャッシュ状況を見て、臨機応変に対応する。

Q: グローブステージにおける一番の反省点は何か？

A: 制御機器事業の伸びによる成長と収益の両立を目標としていたが結果的にできてないのが課題と認識している。

Q: 制御機器、電子部品事業のトップが若返った。人財力は上がっているのか？

A: この 3 年間で若返りや事業の連携なども進み、経営のチーム力は上がっている。また、外国人を主要なポジションに登用するなど人財力は向上している。例えば電子部品事業の上海工場における中国人総経理(女性)の登用など、現地社員のモチベーション向上にもつながっている。

◆ 制御機器(IAB)関連

Q: 2016 年度までの IAB について、4%の成長は低く感じる。マーケットの伸びや外部環境を含めて売上計画の背景を聞きたい。

A: マーケットの成長と同程度の伸びを想定しているが、中国を含む新興国は慎重に見ている。国内は回復基調で売上拡大を見込むが、2014 年度は消費増税の影響などを考慮している。当然ながらシェア拡大は狙っていく。

Q: アース 1 ステージにおける IAB の利益率は？ グローブステージで収益構造を作り上げたと思っていたが、アース 1 ステージでも投資を行うのか？

A: 引き続き、GP 率の向上は目指す。しかしながら、アース 1 ステージでも成長基盤構築のための販管費や R&D 費での投資を実行するため、営業利益には影響が出る。

◆ ヘルスケア事業(HCB)関連

Q: HCB の先行投資の中身は？ いつまで投資が続き、回収期はいつか？

A: 先行投資の中身は大きく二点あり、①センシング&コントロール技術を活用したウェアラブルなデバイスの開発、②新興国でのチャネル開拓。今後 3 年間も投資を継続し、同時に売上増加も狙っていく。

◆ その他事業関連

Q: アース 1 ステージにおける、その他事業の売上成長が大きいのが、その牽引役は？

A: グローブステージでは環境事業、バックライト事業を中心に売上を伸ばした。今後も環境を中心に伸ばしていきたい。

Q: 競争激化によるパワコンの価格低下は今後の計画に織り込んでいるか？

A: 太陽光発電事業は住宅、低圧ミドル、メガの 3 つの領域に分けられるが、オムロンは住宅、低圧ミドルを得意としている。価格の変化が大きいのはメガであり、オムロンが参入している市場の価格低下はそれほど大きくないと見ている。
